

## 編集のことば

辞書を通して、我々は未知の語を知り、既知の語に対する認識を深めることができる。辞書は大小さまざまで、その性格も一様ではないが、説明はおおむね簡潔である。しかし、すべての語句には、それをを用いる人、また、用いた人の思いが込められていて、辞書には現れない歴史的背景となっている。ことばは、人間の社会生活、それを取り巻く自然環境、そこに発達した文化と深いかわりがあつて、一語一語の消長に人間の運命が影を投じていると言える。

これらの語がどのようにして発達し変遷してきたか。その研究は古くから行われているが、その総括的な研究は、語彙が複雑多岐を極めているゆえもあつて、今日まで十分に行われてはいない。ここに、あえて語彙発達の概観を試み、語彙の諸相を多角的に観察し、その基本的な問題をも考察することにより、語彙研究の今後の方向をさぐる意図を以て本講座を編集することになった。

語は言語の一形態であるが、意味を伴って始めて語となる。しかし、語の意味は、多種多様で変化に富み、このことが語の研究を困難なものとしている。その基本的な問題について考察を深めるとともに、具体的には、日本語の語彙の特色を、諸外国語と比較しながら究明してゆくことが本講座の一つの課題である。

次に、古代から現代に及ぶ主要な作品を選び、その語彙の種類や数量、語形・語構成・語義、また、位相などにわたって、それぞれの作品における語彙の性格・特色を探るとともに、全体として、語彙の変遷発達の過程を明らかにする。これがまた重要な課題である。さらに、最近研究が盛んになってきた方言語彙についても、その成果をふまえながら、なお未開拓の分野、新しいテーマについて考察を進める必要がある。

また、日常普通に使われながら、常には顧みられないことばにも、その成立変遷にそれぞれの歴史があり、また、その由来の明らかでない語もある。その生きた姿をとらえ

ることも、欠くことのできない研究課題と考えられる。

以上のような課題に答え得るならば、ことばの学問の発達を促すばかりでなく、言語教育にも役立ち、ことばに対する理解と愛情を一段と深めることになるであろう。各位の協力によってこの念願を果たしたいと思う次第である。

昭和五十六年十一月

佐藤喜代治